活用事例1

空き家×住まい

空き家として眠っていた家に、もう一度新しい命が吹き込まれた事例を紹介します。住居や介護施設として、再び明かりが灯った2つの家で話を聞きました。

空き家が結んだ大家さんとの縁―

大家さんとの出会いが決め手

3年半前に、築15年の住宅を購入した安藤さん家族。以前は2階建ての借家に住んでいたそうですが、出産を機に子育てしやすい住宅を求めて、いくつか物件を見て回ったそう。

「老後は別の場所に移住してみたいという思いもあり、新築にはこだわらなかった」。そう語る安藤さん夫婦が、この家を選んだ最大の決め手は大家さんの人柄。60代のご夫婦が住んでいたそうで、「見学に来た時に、家の中はもちろんご近所まで案内してくれたので安心して入居できました」。また、大家さんは子育て世帯が住むことを非常に喜んでくれたといい、入居前にはご厚意で壁紙や畳を張り替え、水回りもリフォームし、引っ越しまで手伝ってくれたそう。そんな大家さんとは今でも交流があり、「何度か新しいおうちにも遊びにいっています」と話す安藤さん夫婦の顔には笑みがこぼれます。

子育てしやすい環境を求めて

ご主人の安藤大之（ひろゆき）さんは、東京から14年前に市内へ移住。

「都会で育ちましたが、自然豊かで空気や水がきれいな場所に住みたかったので、このまちに来ました」。子どもたちを自然の中で育てたかったという安藤さん夫婦。学校やお店が近くにありながらも、家の周りには田畑や森が点在し、子どもたちも思う存分走り回ることができます。

「ご近所の皆さんも子どもたちと遊んでくれて助かっています」。地域の方々も、幼い子どもたちの成長を温かく見守ってくれているそう。

安藤さん家族が縁あって住むことになったこちらの空き家。再び明かりが灯ったこの家で、2人の子どもたちが、これからもすくすくと育っていくことでしょう。

大家さんこだわりの吹き抜けは、明るく解放感があります。

イギリス好きの大家さんが建てた洋館のような佇（たた）まい。

活用事例2

空き家×福祉

「第2の自宅」のような居心地の良い空間―

さくら荘
（小規模多機能型居宅介護施設）
☎0287(60)3130
桜町2-3

住まいの面影を残した介護施設

市内に数カ所ある空き家を活用した福祉施設。その一つである〝さくら荘〟は、平成19年、黒磯市街地に開所した小規模多機能型居宅介護施設です。通い、宿泊など利用者の希望に合わせて、食事や入浴サービスが受けられます。

「偶然見つけた空き家を買い取り、5カ月かけてリフォームしたそうです」と語るのは、5年前からこちらの管理者として勤務する郡司典子さん。空き家の期間が短く、状態は悪くなかったものの、一般住宅を介護施設に変えるため、スロープ付きの玄関を新設したり、和室の敷居を削って平らにしたり、バリアフリー化の工事をしたという。

また、宿泊可能な施設にするには、消防法をクリアしなければならず、耐震補強や防火対策など、住宅とは異なる基準で整備する必要も。しかし、それらを加味しても「新しい施設をゼロから建てるより、既存の住宅を活用した方がコストも抑えられます」と語る郡司さん。

「認知症の方は環境を変えると大きなストレスになりますが、こちらでは自宅に近い感覚で過ごしてもらえます」。利用者は畳の部屋でこたつに入りテレビを見たり、自分で洗濯物を干したり、入所前に近い暮らしを送っています。

「木造家屋なので、冬でも適度な湿気が保たれ、風邪をひく利用者の方もめったにいません」。これも、一般の木造住宅を利用している利点の一つ。

住宅やお店が立ち並ぶ市街地に位置するさくら荘。地域の方とふれあう機会も多く、近所の方から野菜をおすそ分けをしてもらうこともあるそう。

自宅にいるかのようにくつろぎ、穏やかな時間を過ごす利用者の皆さんの姿から、空き家活用の本質を垣間見たような気がしました。

施設名の表記がなければ、まるで一般住宅のような外観。

一般住宅の玄関を活かしつつ、スロープ付き玄関を新設。